

# 景気動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>) 「調査レポート」をご覧ください。

## 「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

### ① 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

### ② 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

### ③ 調査期間

令和2年5月11日(月)~20日(水)

### ④ サンプル概要

アンケート対象企業 山形663社、秋田497社  
有効回答数 山形433社、秋田388社  
回答率 山形65.3%、秋田78.1%

特に好調 DI $\geq$ 30	好調 30>DI $\geq$ 10	まあまあ 10>DI $\geq$ ▲10	不振 ▲10>DI $\geq$ ▲30	きわめて不振 ▲30>DI

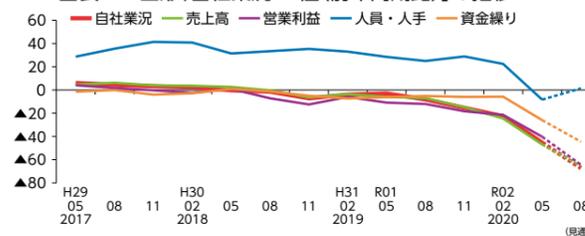
## ■ 自社業況の動向

**山形県**の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲45.3(前回調査比22.7ポイント下落)と大幅に悪化した。これは、2009年5月調査に次いで2番目に低い値となった。「各種DI値(前年同期比)」をみると、すべての項目で大幅に下落となった。

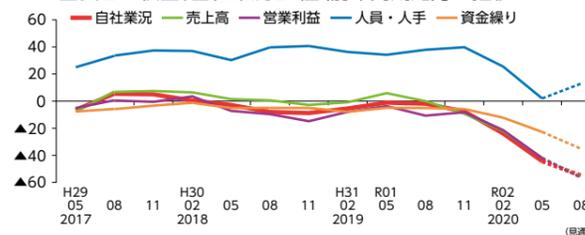
**秋田県**の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲44.3(前回調査比20.4ポイント下落)と4期連続で悪化し、**大幅な悪化**となった。「各種DI値(前年同期比)」では、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも悪化し、「人員・人手」は大幅にプラス幅が縮小した。

山形、秋田ともに、総じて、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

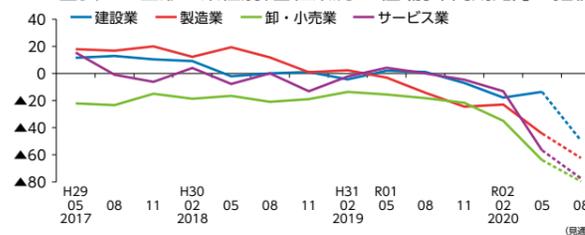


## ■ 業種別の動向

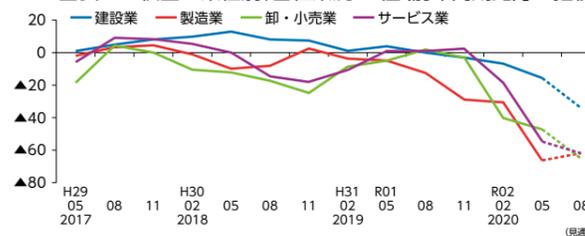
**山形県**の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業で4期ぶりに改善したものの、**製造業、卸・小売業、サービス業**で大幅に悪化した。卸・小売業は5期連続、サービス業は4期連続の悪化となった。

**秋田県**の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業は4期連続の悪化、製造業は6期連続の悪化、卸・小売業は3期連続の悪化、サービス業が2期連続の悪化と、**4業種すべてで悪化**となった。特に製造業とサービス業では30.0ポイント以上の下落とマイナス幅が大きくなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

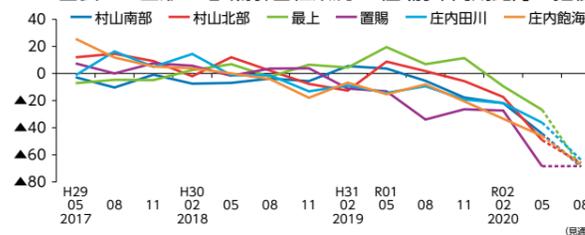


## ■ 地域別の動向

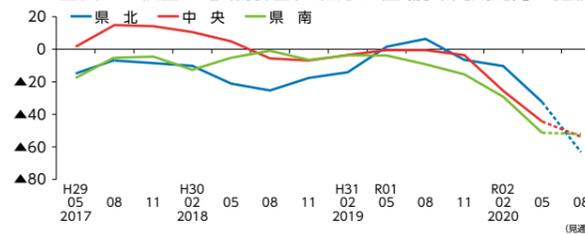
**山形県**の業況(前年同期比)を地域別にみると、**6地域すべてで大幅に悪化**となった。村山南部は5期連続、村山北部は4期連続、最上と置賜は2期連続、庄内田川と庄内飽海は3期連続の悪化となった。

**秋田県**の業況(前年同期比)を地域別にみると、**3地域すべてで大幅な悪化**となった。県北と中央が3期連続、県南が5期連続で悪化と、

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



## ■ 景気の天気図

### 第63回 山形県内企業の景気動向調査

**山形県**

今期の業況 → 来期の見通し

**庄内飽海**

今期の業況 → 来期の見通し

**最上**

今期の業況 → 来期の見通し

#### 今期の業況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

**庄内田川**

今期の業況 → 来期の見通し

**村山北部**

今期の業況 → 来期の見通し

**置賜**

今期の業況 → 来期の見通し

**村山南部**

今期の業況 → 来期の見通し

### 第36回 秋田県内企業の景気動向調査

**秋田県**

今期の業況 → 来期の見通し

**県北**

今期の業況 → 来期の見通し

#### 今期の業況

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設業				
製造業				
卸・小売業				
サービス業				

**中央**

今期の業況 → 来期の見通し

**県南**

今期の業況 → 来期の見通し

# 消費動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

## 「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- ① **調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- ② **調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送およびインターネットによるアンケート調査
- ③ **調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- ④ **調査期間** 令和2年6月1日(月)～15日(月)

<b>山形</b>	モニター世帯数：253世帯
	有効回答数：242世帯
	回答率：95.7%
<b>秋田</b>	モニター世帯数：243世帯
	有効回答数：233世帯
	回答率：95.9%

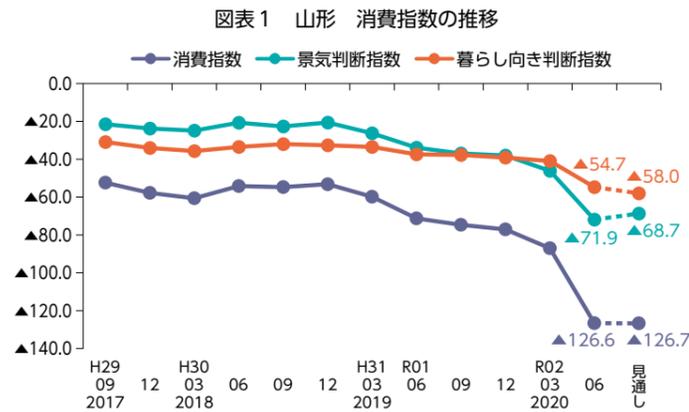
### 消費指数

#### 第56回 山形県内家計の消費動向調査

##### ～消費マインドは大幅に悪化～

消費指数は、▲126.6（前期比39.6ポイント下落）と、2006年9月の調査開始以来4番目に低い値となった（最低値は、リーマンショック後の2009年3月調査の▲143.6）。悪化幅については、調査開始以来最大となった。内訳は、景気判断指数が▲71.9（前期比25.8ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲54.7（前期比13.8ポイント下落）といずれも大幅に悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲126.7とおおむね横ばいの見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲68.7と小幅な上昇が見込まれる一方、暮らし向き判断指数は▲58.0と悪化が見込まれている。

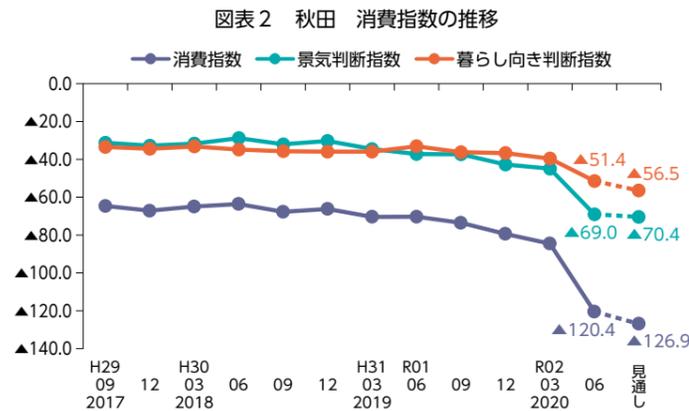


#### 第36回 秋田県内家計の消費動向調査

##### ～消費マインドは大幅に悪化～

消費指数は▲120.4（前期比35.9ポイント下落）と大幅に下落し、2011年9月の調査開始以来最低の値を更新し、悪化幅も調査開始以来最大となった。内訳をみると、景気判断指数は▲69.0（前期比24.1ポイント下落）と6期連続で悪化、暮らし向き判断指数は▲51.4（前期比11.8ポイント下落）と4期連続の悪化と、ともに大幅な悪化となった。

今後の見通しは、▲126.9とさらに悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲70.4、暮らし向き判断指数が▲56.5と、ともに悪化が見込まれている。



#### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と暮らし向き判断指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

### 景気と暮らし向き

#### 景気判断

**山形**の景気判断指数は▲71.9（前期比25.8ポイント下落）と大幅に悪化した。景気判断指数を構成する3つの指数については、「景気（県内）」「雇用環境」「物価（日用品）」のすべての項目で悪化し、中でも「景気（県内）」「雇用環境」が大幅に悪化となった。

**秋田**の景気判断指数は▲69.0（前期比24.1ポイント下落）と6期連続で悪化した。指数を構成する個別指数で見ると、3項目すべてで悪化となっており、特に「雇用環境」の悪化幅が大きくなっている。

#### 暮らし向き判断

**山形**の暮らし向き判断指数は▲54.7（前期比13.8ポイント下落）と大幅に悪化となった。暮らし向き判断指数を構成する4つの指数については、すべての項目で悪化した。「世帯収入」は2期連続、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」は3期連続で悪化となった。

**秋田**の暮らし向き判断指数は▲51.4（前期比11.8ポイント下落）と4期連続で悪化した。指数を構成する個別指数で見ると、すべての項目が悪化となった。「世帯収入」は2期ぶり、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」は2期連続の悪化となった。

#### 家計収支

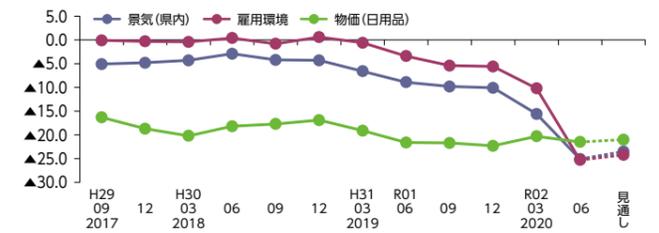
**山形**の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が524千円（前年同期比119千円増加）、支出面では支出合計が418千円（前年同期比2千円増加）となった。収入の増加は、世帯主の定例給与といった定期的な収入増ではなく、一時的な要因によるものとなっている。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は79.8%と、前年同期に比べて22.9ポイントの低下となった。

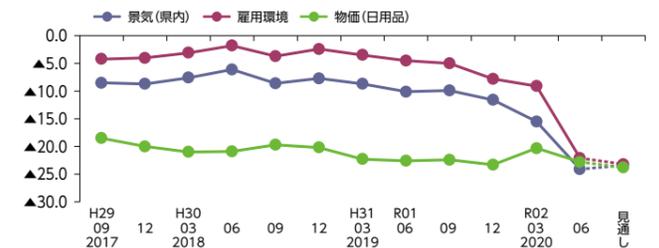
**秋田**の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が412千円と前年同期比で32千円の減少となり、支出面では支出合計が361千円と前年同期比で38千円の減少となった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は87.6%と、前年同期に比べて2.3ポイントの低下となった。

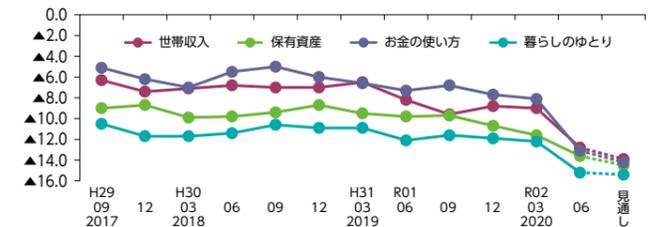
図表3 山形 景気判断指数(内訳)の推移



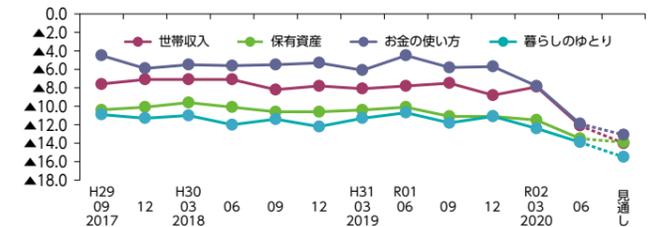
図表4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



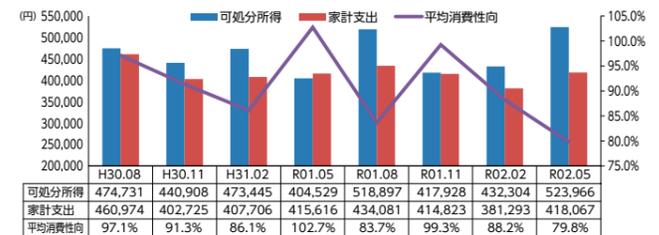
図表5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表7 山形 家計収支と平均消費性向の推移



図表8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

